

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成26年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成	申請大学名	信州大学
申請大学長名	山沢 清人		
プログラム責任者	濱田 州博		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムの教育研究施設の整備を含めて、計画を着実に推進している。大学院理工学系研究科と大学院総合工学系研究科全体で本プログラムに取り組む姿勢がみられるなど、プログラムを遂行する上での学内の組織・マネジメント体制も整えられている。 一方、今後生じる可能性があるプログラムについていけなくなる学生や研究テーマの選択、修了後のキャリアパスなどに悩みを抱える学生に対するケア体制の充実が、望まれる。 意見交換を行った学生たちは、自らが不足気味と捉える英語力の向上に努めており、学修に対するモチベーションも高く、プログラムへの参画によってほぼ順調に成長していると見受けられた。 英語力が不足している学生が多いことから、外国人教員によるプログラムの講義や、英語での討論や発表などにより英語能力を養う英語技法特論などの機会を通して、学生が英語に触れる機会を増やすことが重要と考える。 学生は今後プログラム独自の様々な講義を受講することになるが、学生がそれら全体を俯瞰的に捉え、理解させるための工夫が必要と思われる。 研究室ローテーションにより配属される研究室の研究テーマが、「ファイバールネッサンス」という概念の中でどう位置づけられるのかを、指導教員のみならず学生自身も明確にイメージすること、その上で研究に当たることが、本プログラムの趣旨に沿った専門性の涵養という点で重要と考える。 技術経営（Management Of Technology）科目の履修は、本プログラムの目指す人材育成の上で重要な位置を占めると考えられ、事業構想大学院大学との連携により学生にイノベーションに資する授業を履修させる取組は、有意義なものとして評価できる。 プログラムの方針として、本プログラムに参画する学生を、できる限り国際色豊かなものとするため特定の国からの留学生に偏らないようにすることと、今後日本企業が進出する可能性の高い国の留学生を積極的に獲得するという事は、留学生の就職及び日本企業の海外展開に資する、優れた方針であると評価する。 採択時に附された留意事項に対しては、それぞれ適切に対応している。特に、プログラム採択後に海外の多くの主要な繊維系大学と連携協定を締結したり、また現在交渉中であつたりと、海外大学との研究教育の交流が進展している。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの1学年の定員は10名のところ第1期生は8名と、参加する学生数が必ずしも多くないことから、大学院理工学系研究科と大学院総合工学系研究科に所属する学生に対し、単位取得の有無にかかわらず講義を開放するなどの工夫をすることで、本プログラムを契機として各研究科全体の教育研究レベルの向上に繋がられると考えられる。 			

- ・プログラムに参画する学生の英語力が、プログラムによって行われる英語の授業や講演等を理解するうえでやや低いのではないかと、この印象を持った。
- ・企業インターンシップに関して、現在相手先として日本企業は十分に整備されているが、今後は海外企業を開拓する努力を行うことで、学生がより海外で経験を積むことが出来る環境を拡大することができれば、更に良い。
- ・今後 MOT 教育を更に充実させることで、技術マネジメント能力や俯瞰力の涵養に資することを期待する。
- ・本プログラムでは、博士前期課程が 4 研究分野（フロンティアファイバー、バイオ・メディカルファイバー、スマートテキスタイル、感性・ファッション工学）の講義履修にあてられ、後期課程では論文を最低 2 報完成させる必要があるが、後期課程の 3 年間で果たしてそれが可能か、との疑問を持った。前期課程の時期から研究を開始しなければ、論文 2 報を完成させることが困難になるのではないかと、この懸念を持った。
- ・本プログラムが真に成功するか否かは、ポテンシャルの高い、優秀な学生を一定程度獲得できるかにかかっている。意見交換を行った学生からは、本プログラムに応募可能な信州大学の学生たちが本プログラムへの進学を希望しない原因として、アカデミックキャリアも含め、博士号を取得してから社会に出るというモチベーションを有していない、もしくは希薄なのではないかと、この指摘があった。プログラムに参画する優秀な学生を増やすためには、本プログラムを修了した学生たちが、グローバルリーダーとして社会で如何に活躍しているか、その実績を世に示すことが必要であろう。当面は本プログラムを修了した学生を受け入れる企業の数を増やすことと、第 1 期生のプログラム修了後のキャリアパスの構築の為に手厚いフォローを是非ともお願いしたい。
- ・また、「ファイバー・ネットワーク」を掲げ発足したプログラムであることから、その理想に沿うような、最先端分野を切り拓く力を身につけた人材を育成するという点で、学生に対し更に踏み込んだ指導を検討しても良いのではないかと（例えば具体的な研究テーマの提供やキャリアパスの提示など、本人の希望を尊重し適性を見極めた上で、押しつけにならないように）。この点に関連して、学生数が比較的少ないことを利点と捉え、学生のプログラム参画による成長の記録（ある程度フォーマットを決めたもの）を作成することで、繊維系分野におけるオンリーワンプログラムの構築のために活用してはどうか。